

# ① 文学研究科 2022年度

## ② 入試区分

文学研究科博士前期（Ⅱ期）

## ③ 出題科目

専門科目

## ④ 出題の意図

博士前期課程の専攻分野である日本文学の研究を推進し学識を深めていくために必要な能力及び知識を測ることを目的とし、古典文学の的確な読解、分析・考察の妥当性、文章記述の適切さ等を見極めるとともに、各時代の文学史に関わる重要事項についての知見を問う問題となっている。

## 文学研究科博士前期課程入学試験問題

一次の文章は、『伊勢物語』の一節である。その主題について考察しなさい。解答に際しては、まず本話の要約を示し、続いて、もとの女が隠れている男の存在に気付いていない場合の主題を述べ、次に気付いていた場合の主題を考察するに当たり、気付いていたことを示唆する本文中の箇所を明示しながら分析してまとめること。字数は四百字以上五百字以内で、解答は解答用紙に記入しなさい。

昔、田舎わたらひしける人の子ども、井のもとに出でて遊びけるを、おとなになりければ、男も女も恥ぢかはしてありけれど、男は「この女をこそ得め」と思ふ。女は「この男を」と思ひつつ、親のあはずれども聞かでないありける。

さて、この隣の男のもとより、かくなむ、

筒井筒井筒にかけしまろがたけ過ぎにけらしな妹見ざるまに

女、返し、

くらべこし振り分け髪も肩すぎぬ君ならずしてたれかあぐべき

など言ひ言ひて、つひに本意のごとくあひにけり。

さて、年ごろ経るほどに、女、親なく、頼りなくなるまに、「もろともにいふかひなくてあらむやは」とて、河内の国、高安の郡に、行き通ふ所出で来にけり。さりければ、このもとの女、「あし」と思へる気色もなくて、いだしやりければ、男、「異心ありてかかるにやあらむ」と思ひ疑ひて、前裁のなかに隠れりて、河内へいぬる顔にて見れば、この女、いとよう化粧じて、うちながめて、

風吹けば沖つ白波たつた山夜半にや君がひとり越ゆらむ

と詠みけるを聞きて、「限りなくかなし」と思ひて、河内へも行かずなりにけり。

## 二 次の文章を読んで後の設問に答えよ。

「奥山に猫又といふものありて、人を食らふなる」と、人の言ひけるに、

「山ならねども、これらにも、猫の経上がりて、猫又になりて、人となることは<sup>①</sup>あなるものを」

と言ふ者ありけるを、何阿弥陀仏とかや、<sup>②</sup>連歌しける法師の、行願寺のほとりにありけるが聞きて、<sup>③</sup>ひとりありかん身は心すべきことにこそと思ひけるころしも、ある所にて夜更くるまで連歌して、ただひとり帰りけるに、小川の端にて、<sup>④</sup>音に聞きし猫又、あやまたず足もとへふと寄り来て、<sup>⑤</sup>やがてかきつくまに、首のほどを食はんとす。肝心も失せて、防がんとするに、力もなく、足も立たず、小川へ転び入りて、

「助けよや。猫又よや、猫又よや」

と叫べば、家々より、松どもともして走り寄りて見れば、このわたりに見知れる僧なり。

「こはいかに」

とて、川の中より抱き起こしたれば、連歌の賭物とりて、扇、小箱など懐に持ちたりけるも、水に入りぬ。希有にして助かりたるさまにて、はふはふ家に入りけり。

飼ひける犬の、暗けれども主を知りて、飛びつきたりけるとぞ。 『徒然草』

## 設問

- 1 傍線部①く⑤を必要に応じて言葉を補いつつ現代語訳せよ。
- 2 猫又の二種について説明せよ。
- 3 法師は飼い犬を何故猫又と勘違いしたか。
- 4 作者が法師に対してどのような思いを抱いているか。それが窺える箇所を挙げて、そこからどのような思いが窺えるを纏める形式で答えよ。
- 5 当時の連歌の実態について本文より推定せよ。

三次の各設問に答えよ。

## 設問

- 1 『日本書紀』編纂の目的は何か。
- 2 『古今集』編纂の目的は何か。
- 3 中古の物語が多くの場合作者未詳である理由は何か。
- 4 軍記と戦記の違いは何か。
- 5 作品享受という点において、近世期以降最大の特徴は何か。
- 6 古典と近代文学とは、如何様な文学的態度に拠って区別されるか。

文学研究科博士前期課程入学試験解答用紙

受験番号

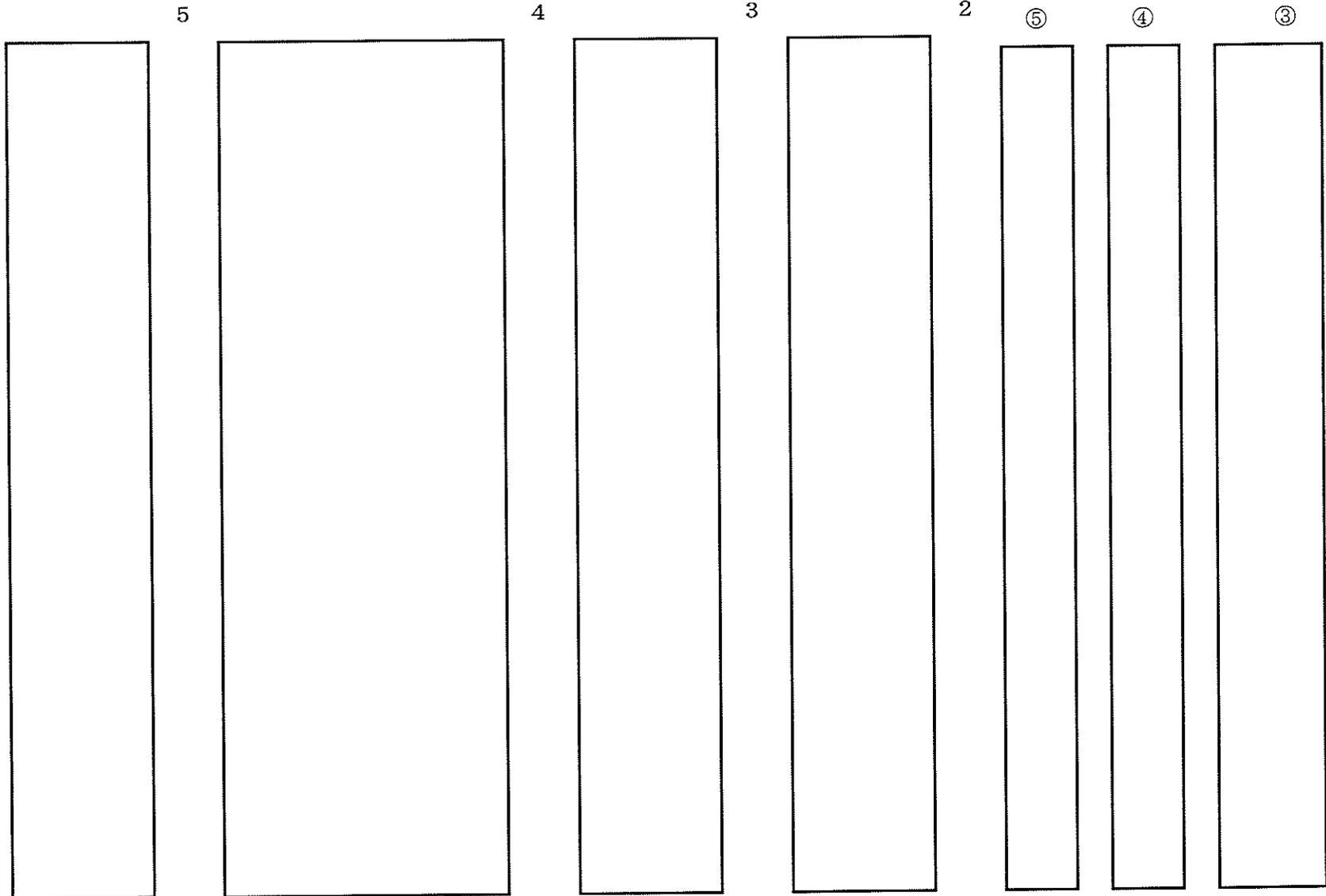

--	--	--	--	--


②

①

1 二


四百字



得	点

6	5	4	3	2	1

三

2022 年度Ⅱ期 大学院文学研究科博士前期課程入学試験問題 専門〔日本文学・古典〕  
解答のポイント

一 (小論文形式)

二

- 1
  - ① 伝聞推定の「なり」が処理できているか
  - ② 同格の「の」が処理できているか
  - ③ 婉曲仮定の「む(ん)」が処理できているか
  - ④ 過去の「き」が処理できているか、且つ、「音」の意味が把握できているか
  - ⑤ 「やがて」「まさに」が正確に把握できているか
- 2 「奥山」と「経上がりて」を二種として区別できているか
- 3 疑心暗鬼の状態を読み取れているか
- 4 「助けよや。猫又よや…」 「飼ひける犬……飛びつき」等、臆病、濡れ鼠で匍匐前進、賭物もずぶ濡れ、隣家の人々の目撃、の箇所から、似非隠者の告発の意を指摘する
- 5 高尚な文芸である同時に花下連歌にも代表される賭博的遊戯であること

三

- 1 唐へのアピールという点を指摘する
- 2 国風文化の成立ということに触れる
- 3 宮中サロンにおける女房たちの共同制作ということを問題にする
- 4 語りか否かということを指摘する
- 5 出版文化の成立ということを指摘する
- 6 表現中心か写実を核とするかというような観点から述べる